

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
環境技術委員長 坂 本 忠 彦
両団体専務理事 清 原 淳 平

環境技術委員会のお知らせ (第366回)

日時 令和2年2月19日(水) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、「環境問題について、昨今、想うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、「土づくり」「苗づくり」「人づくり」で「地域循環共生圏」の創造を目指す」

解説 内藤敏(熊谷組土木事業本部土木担当部長)

3、『環境技術関連ニュース NO.186』

解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る12月18日開催の第364回環境技術委員会は、坂本忠彦環境技術委員長が議長を務め行われました。次に、坂本委員長より「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。COP25は、当初チリで開催予定だったが、反政府デモが激しくなったため、スペインに変更された。スウェーデンの少女が北米から船で会場に現れ、「各国の指導者は未来と今の世代を守る責任がある」という発言をマスコミは取り上げたが、一方的に「大人は何もしていない」という趣旨の発言には違和感を持った。日本は「環境保全に消

極的」などと叩かれたが、日本の石炭火力発電が進歩していることなどは取り上げられず、石炭火力発電という表面だけを捉えられたように感ずる。COP25ではパリ協定の最終合意には至らず、玉虫色の決着となった。来年のグラスゴーでのCOP26に期待したい。

始めに、坂本委員長より道祖土勝彦元日本大学准教授の経歴紹介がありました。続いて、道祖土先生より、『回収プラスチックの再資源化』について解説がありました。プラスチックは海洋に流出してマイクロプラスチックになり、海洋生物に入り、人間がそれを食べて害をもたらすといわれている。問題はそれだけではなく、海洋中のプラスチックは30℃程度で分解し、有毒物質(スチレンオリゴマーという混合物で、一酸化硫黄を含んでいる。これによる汚染は40年前から始まっているとされる)を出しながらメタンなどを出す。メタンはCO₂の何倍もの温室効果がある。海水温の上昇は海洋中のプラスチックを分解しやすくするので、今すぐに海中のプラスチックを回収しなければ、危機的状況に陥る。実験では、1tのポリスチレンは30℃で1年間に0.3g分解する。プラスチックが分解しないというのは誤りである。ポリスチレンを医薬品に活用するなど、再資源化は技術的に難しい話ではなく、コストの問題さえ解決すればよい。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.185』の解説がありました。今回は、○気温上昇によって日本でも一年中蚊が死滅せず、蚊が齎すデング熱やマラリアが蔓延する危険性を唱える説。○化石燃料の生産計画がこのままならパリ協定水準の2倍以上になるとの予測。○世界のCO₂排出量は3年連続増加。○CO₂30万tの地中封じ込めを日本国内で初の成功。○鉄酸化細菌を利用し、CO₂原料からエチレンを生産。3年後をめどに培養を確認し、試験生産を検討。○船上でCO₂を回収し、ドライアイスに変え、海底堆積物に貯蔵する技術の研究。○COP25関連のニュース、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、2月19日(水)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp